



7 黒島の集落

7. Villages on Kuroshima Island

「黒島の集落」は、潜伏キリシタンが信仰の共同体を維持するに当たり、どのような場所を移住先として選んだのかを示す5つの集落のうちの一つである。

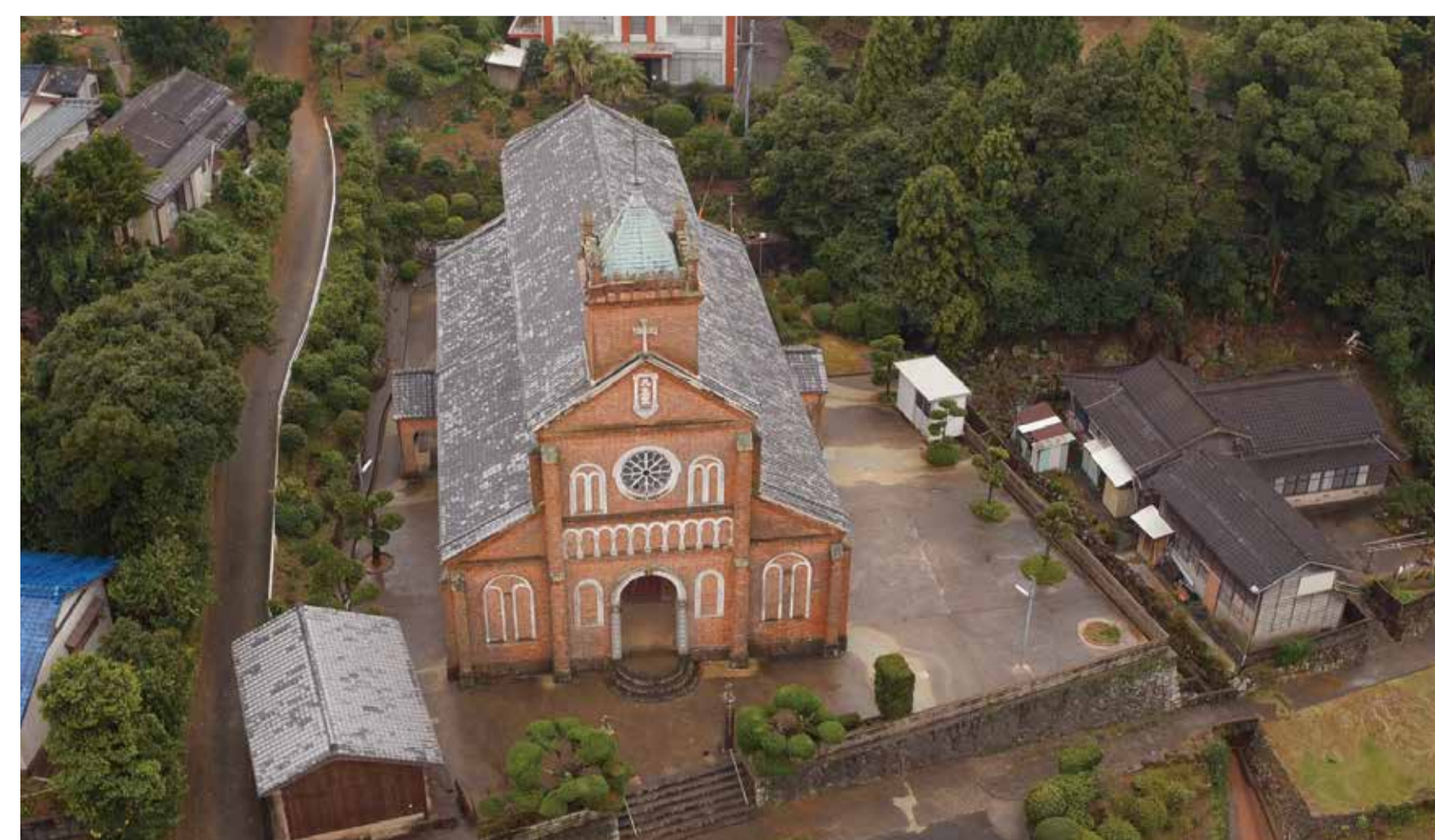
19世紀、長崎地方各地の潜伏キリシタンの一部は、黒島の牧場跡の再開発のために移住が奨励されていることを知り、既存の集落と共存できそうな場所として選んで移住し、表向きは所属していた仏教寺院でマリア観音に祈りをささげながら、ひそかに共同体を維持した。

解禁後はカトリックに復帰し、島の中心部に教会堂を建てたことにより、彼らの「潜伏」は終わりを迎えた。



撮影：池田勉

興禅寺は、黒島への開拓移住者が急増したことに伴って創建された。黒島の潜伏キリシタンは、寺院に所属して参拝することを装いつつ、本堂に安置したマリア観音像にひそかに祈りをささげていた。



解禁直前、黒島の潜伏キリシタンは全員がカトリックへ復帰し、1879年に最初の教会堂が建てられた。現在の黒島天主堂は、1902年に初代の教会堂の跡地に建てられた。毎週のミサでは、絵踏を贖罪する祈りがささげられている。